

心豊かな暮らし

縁
en

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

2014 Vol.31 summer



「縁」モデルハウス 夕景外観

季刊
縁_{en} 2014 Vol.31 summer

心豊かな暮らし

contents

特集
空間の「悠^{ゆう}」を楽しむ —3

岐阜県大垣市 T様邸

矢橋の注文住宅 —7

「縁」モデルハウス

日本の伝統技術を明日へ —9

畳 日本固有の床材

匠の最新技術 —機械を使った匠の技 —11

垂井工場 / 昼飯工場

連載 中山道赤坂つれづれの記 文/故 清水 春一

頼山陽の手紙

For the rich life of the mind



「縁」モデルハウス リビング



家族の気配を
 感じることが出来る。
 空間を共有するという
 住まい方。



2



3

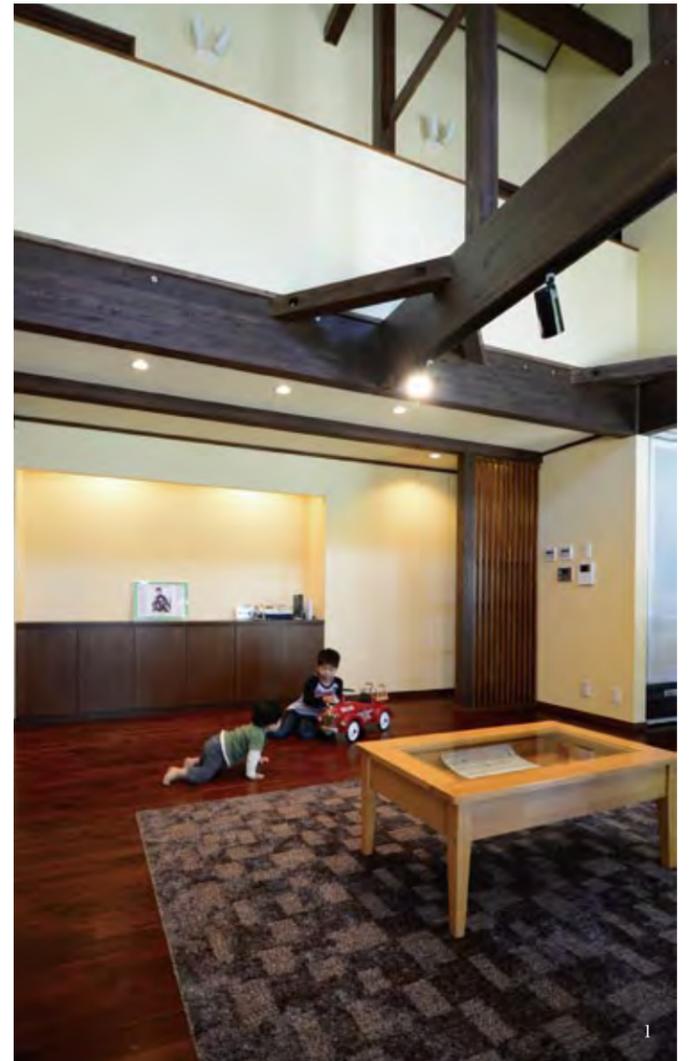
1. 広々としたお庭で遊ぶお子様。テラスが室内と庭を繋ぐ
2. 日本の里山の風景を模した庭の木々が四季を彩る
3. 「アメンボ見つけたよ」とお子様。近くに水路や畑があり、自然豊かな環境
4. 木の温もりに包まれる、縦横に広がった大空間のリビング。家全体に地熱利用の全熱交換型換気システム「澄家(すみか)」を利用。高性能フィルターが花粉などを除去し、アレルギー持ちのお子様にも安心

■特集

空間の「悠^{ゆう}」を楽しむ

ずっと暮らしてきた地元で家を建てたかったというT様。夫婦と子ども二人の四人家族が暮らす「悠楽」の家だ。家族の距離が近い、仕切りの少ないゆったりとした室内空間が広がる家で、お子様達がのびのびと、楽しそうに走りまわる。「アメンボやザリガニを見つけたよ」自然とともに暮らす、親子の思い出は一生の宝物。

岐阜県大垣市 T様邸



1. 矢橋オリジナル無垢フローリングは素足に気持ちいい。本物の木に触れるお子様達
2. 二階から見下ろすリビングは、縦に繋がる大空間
3. オリジナル造作のカウンターはお子様の勉強机に、大きくなったら書斎にも
4. モダンな外観デザイン
5. 土間収納もある広々とした玄関
6. 玄関から入るとすぐ、リビングの大きい吹抜が客を迎え入れる

この家に暮らし始めて、
不思議と心に
ゆとりが持てるようになりました

家ではゆったりと過ごしたいというT様は、お子様が小学校に入学するタイミングに合わせて家を新築した。モデルハウス「悠楽」を見学した際、縦横に広がるのある室内空間と、木の温もりを感じる色合いに惚れたという。

T様夫妻は共働き。「仕事に家事に子育てにと忙しいけれど、この家に暮らし始めて、不思議と心にゆとりが持てるようになりました。キッチンも広く、各部屋に収納がたくさんあって快適」と奥様。

悠楽は「3つの悠」がコンセプトだ。「空間の悠」。仕切りが少なく、空間が繋がることで家族のコミュニケーションもより深まる。家事をしながらでも、お子様達の気配を感じることができる。「趣味の悠」。ゆつたりと時間を楽しむ場として、2階にはホールを設けた。「ここで子どもが勉強をして、私が読書をするなど一緒に活用していきたい」とご主人。

「繋がり」の悠。窓の外にある庭の景色も家の重要な一部。庭の手入れはご主人が担当し、綺麗な芝を保つため毎週草取りは欠かせないという。室内と庭とを自由に走り回り、のびのびとお子様達が遊ぶ。

先日、お兄ちゃんが隣の母屋で暮らすおばあちゃんと、お庭で楽しそうにサッカーをしている姿を見かけました。休日には、お父さんと近くの水路で、ザリガニやアメンボをとって遊ぶそうです。弟さんも歩けるようになり、自然の中で元気いっぱい走り回る2人。この家で、お子様の成長が楽しみです。



営業担当
住宅部
佐久間 雅彦



60TH ANNIVERSARY
悠楽
YUURAKU

YUURAKU MODELHOUSE



矢橋の注文住宅



EN MODELHOUSE

温故知新

矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、天然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住もう。日本の原風景を取り戻し、日本人が育つ住環境をつくりたい。

矢橋の家のこだわり

安全 安心 本物 快適 家事 収納 子育て 趣味



KAI MODELHOUSE



NAVI: 岐阜県大垣市荒尾町1524-95

GREEN COURT 荒尾Ⅲ
うるおひの丘
「悠楽」「懐」モデルハウスはこちらでご覧いただけます。



心からもてなす

四季の移ろいを感じる



心豊かな暮らし

For the rich life of the mind

畳ができるまで

国産の畳は現在、90%以上が熊本県で生産されています。
 イグサの栽培から畳表に織り上げるまでがイグサ農家の仕事。
 畳表をつくる時には、「泥染め」という重要な工程があります。
 イグサ独特の色、香り、光沢はこの泥染めによって生まれます。



① 植え付け

12月上旬頃に圃田(いでん)へ植え付けする



④ 乾燥

イグサを乾燥機に入れ、低温で時間をかけて均一に乾燥させる



② 刈り取り

6月下旬～7月下旬にかけて、イグサの刈り取りを行う



⑤ 織る

乾燥されたイグサは、長さごとに選別し、一枚一枚畳表に織り上げる

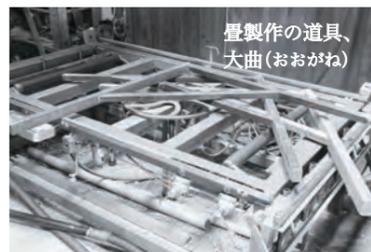


③ 泥染め

泥染めして表面を染土でコーティングし、イグサの成分を閉じ込める



⑥ 完成



施工 (南)石河製畳店(岐阜市下太田町3番地)
<http://www.tatami-gifu.com/>

伝統的な畳の最高級品

古来より、畳表の中でも最高とされてきた「中継表」。畳の真ん中、少し色の濃く見える帯状の部分が、二本のイグサを継いで織った「中継表」のあかし。

施工例:鶴棲院 茶室「白鶴亭」

中継表 なかつぎおもて

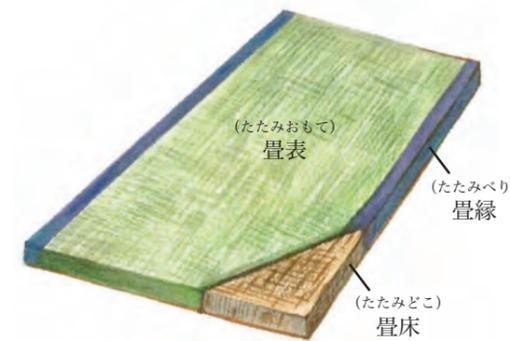
別々のイグサを中央で交差させるように継ぎ、質・色共に秀でたイグサの中央部分のみを使って織られた畳表。今では織手がなく、「中継表」は大変貴重なものとなっている。茶室などの高級畳には、麻でつくられた高級な畳縁が使用されることもある。麻縁は反物を4本または5本に裂いて用いられる。



麻の畳縁の反物

畳

畳は、日本固有の伝統的な床材です。



畳は、日本人の生活の知恵によって生み出されました。気候の変化が激しい日本の風土で、「敷物」として育てられ、伝承されてきました。畳が現在のようになったのは鎌倉～室町時代です。

優れた吸放湿性を持つ畳は、夏は涼しく冬はあたたかい。四季のある日本の環境に最適な床材です。また、そのソフトな構造から弾力性や耐久性、吸音・遮音効果があります。

畳表に使われるイグサの香りには、人の集中力を高めたり、リラックスさせる効果があることが、近年科学的に証明されました。



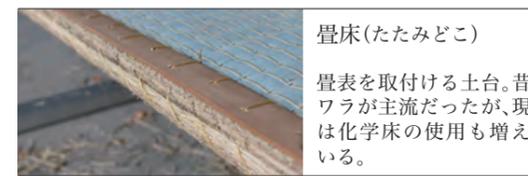
畳表(たたみおもて)

イグサを原料に、たて糸に綿糸や麻糸を使って織ったもの。1枚に約4,000本以上のイグサが使われ、上質な畳表ほど本数が多く、長く良質なイグサが使われる。



畳縁(たたみべり)

畳の長い方の辺に付ける布。茶室などには麻の畳縁、お座敷には綿の畳縁、床の間には紋縁など、用途により素材や柄がある。



畳床(たたみどこ)

畳表を取付ける土台。昔はワラが主流だったが、現在は化学床の使用も増えている。



施工例:瑞龍寺 鶴棲院(岐阜市)

畳のお手入れ



畳干しをして湿気を放出させ、畳表がやけたら「裏返し」をして使うという習慣は、昔から日本人が行ってきた畳のお手入れです。裏返しをして傷んだら、畳表のみを交換する「表替え」を。更に年月が経ち、畳床に凹凸ができたなら畳自体を「新調」します。

◀「表替え」を行った畳
 左 表替え後 右 表替え前

日本の伝統技術を明日へ

確かな技術 安心の家づくり





ひらい 昼飯工場

羽柄材プレカット
加工能力：約 350 棟 / 月

合板プレカット
加工能力：約 350 棟 / 月

再割加工
加工能力：約 2,300 m² / 月

敷地面積：約 20,000 m²
所在地：岐阜県大垣市昼飯町



たるい 垂井工場

構造材プレカット
加工能力：約 80 棟 / 月

造作加工・塗装

敷地面積：約 33,000 m²
所在地：岐阜県不破郡垂井町



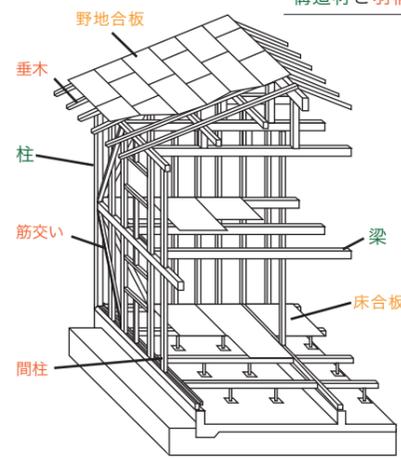
心豊かな暮らし 矢橋の家



匠の最新技術

機械を使った匠の技

構造材と羽柄材及び合板類



主要構造材とは、柱や梁などのことをいうが、これらの材料を邸宅別に加工し梱包している。「矢橋の家」をはじめ、大手ハウスメーカーの加工も行っており、厳しい品質基準をクリアした製品を一ヶ月約80棟分納品している。またピーク時には、一ヶ月に120棟の加工を行った実績もある。

昼飯工場では、羽柄材、合板のプレカット、再割加工などを行っている。羽柄材とは、主要構造材を除く材で、間柱や垂木などのことをいう。

羽柄材の製造設備としては、日本一生産能力の高い設備を使用しており、一ヶ月約350棟分の材料を邸宅別に加工している。昨年は、月385棟の加工も行った。加工量が増えても、事故やケガ、また不具合なく正確に加工をすることが、矢橋の技術力である。

ここでは、工場から出る品質の良い半端材の有効利用として、ベンチやプランターなども製作している。私たちが厳選し、使用している材料を徹底的に使う事が自然の恵みを活かすことだと考え、取り組んでいる。

さらに、このコンピューターを使用した一連の入力作業を標準作業化して、効率よく低いコストで安定生産できるように、この作業をベトナムに設立したVINACADへ移管している。

垂井工場では、主要構造材のプレカット、造作材の加工、塗装などを行っている。

弊社のプレカット加工システムでは、安心安全の根拠となる家の主要構造体の設計をCADと呼ばれる、コンピューターを利用して設計するシステムを使用して設計している。さらにこの設計された情報をCAMデータと言われる加工情報に変換して、プレカット自動加工設備の加工データとして使用している。つまり、設計された内容をそのまま、寸分違わずに、高精度で加工する仕組みを利用して、設計図面通りの加工内容を自動加工設備で効率よく生産することが可能となっている。

この様に材料を事前に工場加工しておくことをプレカットと呼んでいる。

弊社のプレカット加工システムでは、安心安全の根拠となる家の主要構造体の設計をCADと呼ばれる、コンピューターを利用して設計するシステムを使用して設計している。さらにこの設計された情報をCAMデータと言われる加工情報に変換して、プレカット自動加工設備の加工データとして使用している。つまり、設計された内容をそのまま、寸分違わずに、高精度で加工する仕組みを利用して、設計図面通りの加工内容を自動加工設備で効率よく生産することが可能となっている。

従来、大工小屋(小屋)と呼ばれる作業場で、大工さんが図面を基に柱や梁に墨付けをし、1ヵ月から数ヵ月かけて、手作業で木材の仕口や継ぎ手を加工していたものを現在は、工場内の自動加工設備を使用して数時間で加工している。

この様に材料を事前に工場加工しておくことをプレカットと呼んでいる。

工場内では、安全第一。そして、常に3S(整理・整頓・清潔)を徹底し、綺麗な工場で生産される製品の品質管理を行っている。

従来、大工小屋(小屋)と呼ばれる作業場で、大工さんが図面を基に柱や梁に墨付けをし、1ヵ月から数ヵ月かけて、手作業で木材の仕口や継ぎ手を加工していたものを現在は、工場内の自動加工設備を使用して数時間で加工している。



防蟻処理装置

防虫液を自動塗布して、防蟻処理をする。防腐・防蟻のため土台下端から1m以内の部分に薬剤を散布する必要があり、以前は現場で散布していたが、現在は工場内にて処理した材料を搬入している。



柱材料自動投入装置

2種類の投入材料を選択できるなどいくつかの機能を持ち、自動的に加工ラインに投入する。従来は、重い材を手で一本ずつ投入していたが、この装置の導入により身体への負担が減り、生産性もアップするようになった。



合板自動ピッキング装置

合板の必要枚数を自動で数える装置。従来は、一枚ずつ手で数えていたが、自動カウントになり、負担減に加え数量の間違いもなくなった。

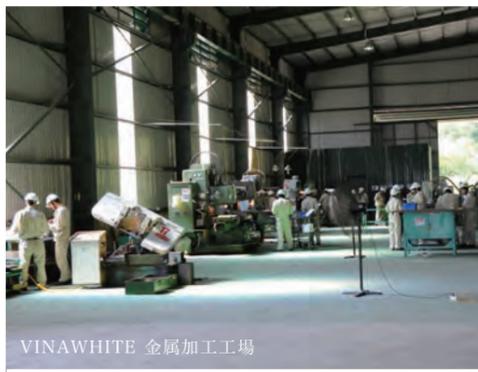


短尺間柱欠加工機

短い間柱専用の加工機。この機械で、短尺材の加工をすることにより、本ラインの稼働率が高くなり生産性が向上した。



赤坂工場



VINAWHITE 金属加工工場



印字機 (自製)

工場のみんなでアイデアを出し合い改善活動を続けている

改善活動は、コスト削減だけでなく、安全にそして確実に出荷するため、日々行っている。安全確保や加工時間の短縮、作業性の向上、加工機の停止時間削減など様々な取り組みをしている。

また、品質の管理も欠かさない。使用する材料の検査はもちろんのこと高精度な加工ができる様、機械の動作を定期的にチェックする。「矢橋の家」では、木造軸組金物工法を採用しているため、金物取付け位置のずれがないか等、加工検査記録をとるなどして1ミリ以下の単位で検査し、管理している。

改善活動の一環として、自社で加工機の設計をし、製作している。

大工さんが自分の道具を手づくりするように、自社製加工機をつくる

例えば、長さの短い材料の加工。短尺の材を大きな機械で加工するのは、効率が悪いと考えると、短尺材加工機を自社開発した。これにより、短い材だけを効率よく加工できるようにになり、生産性がアップした。この様に改善しながら、自分たちが使いやすい機械をつくっていく。

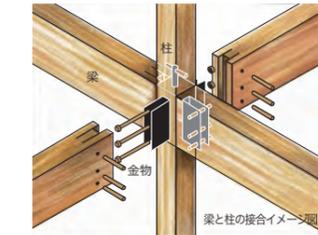
生産技術部と赤坂工場、グループ会社のVINAWHITE金属加工部門(ベトナム)が連携して開発を続けている。この現場の改善力こそが、匠の技であると考えている。

テストピース



垂井工場では毎朝、加工を始める前に機械の動作確認を行っている。

木造軸組金物工法



接合部の断面欠損が少ないことで、とても強い構体になる。金物を使用するため強度がありまた、工場で金物を取付けるため、確実に取付ける事ができ、かつ現場での施工時間短縮が可能である。



プレカット加工システムの主な流れ



お客様と打ち合わせをし、プランが決まり次第、設計図面を作成する



設計図面を基に、グループ会社のVINACAD(ベトナム)にてCADデータを作成する



CADよりCAMに変換されたデータを確認し、邸宅別に機械へデータを送る



データに従って、長さや幅、高さなどを正確に測定し加工する



製品の検査をし、邸宅別に梱包する



梱包された製品を、指定日に指定の現場へ搬入する



予約受付中!
6/21(土) 工場見学会開催
昼食付

※ 工場見学をご希望の方は、右記のフリーダイヤルまでご連絡ください。0120-884-039

イタリア人は最も美味しい料理は「マンマの手料理」だと言います。美味しさの原点は、母親の愛情が詰まっている料理だと思えます。人が心を込めて手で造る料理や物には感動を呼び起こす力があり、心に残るのだと思います。心豊かな暮らしを実現する家には「マンマの手料理」の心が必要だと思えます。使う人の身になって材料を吟味して、丁寧に仕事をする事が重要です。家を造るには多くの職人が携わります。関わった全員の職人の真心が一致して、良い家になります。

矢橋の家はコンピュータや、機械を使い、そして手を使って色々な道具を使いながら心を籠めてマンマの手料理のように、家を造らねばならないと思っています。

遠く離れたベトナムでも矢橋のベトナム人は、日本のお施主様が安心して暮らせるような木造の構造入力をミスが無いように、毎日慎重にCAD入力に取り組みしています。ベトナムで入力したデータを使い、プレカット工場では正確で美しい加工が出来るように作業をする技能者が機械を整備して、また、機械を造り、慎重に棟・棟大切に加工をしています。

「矢橋の家」の構造の上棟は棟上げを専門にした技能者集団です。安全を前提条件として、正確に綺麗に住宅の構造を組上げる専門集団です。住宅の骨組みが組み上がってからは、いよいよ造作大工の登場です。チャック、ナラ、栗などの無垢のフローリングを、手を使って張り込んでいきます。手動の機械は使いますが、造作はほぼ手仕事です。他に建具、左官、畳など手仕事の職人さんが次々と現場に入り、家を完成させていきます。

綺麗な現場には安全と高い品質が宿ります。まず、現場が整理整頓清掃されている事が前提条件です。社長として弊社のプレカット工場を是非一度ご見学を頂きたくお願い申し上げます。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍直



昼飯工場

うみゆり連載集

中山道赤坂つれづれの記

頼山陽の手紙

故清水 春一

先に紹介しました中国の古墨「程君房」の話は、矢橋家のご当主矢橋龍太郎さんから伺ったお話によりますと、後日、赤水は所蔵する二個のうちの一個を山陽の許へ送りましたが、どうしたわけか両叟（春水と杏坪）の書は得られなかったのではないかと、いうことでした。

丁重かつユーモアあふれる

しかし、このときの山陽の手紙は、さすがに歴史上の大文豪であるだけに、書も文も素晴らしいもので、かつて富長蝶如先生も、「この手紙は最初から終わりまで全文を通じて、冗談、しゃれの巧みな表現で貫しており、流石は山陽先生の面目躍如たるもの、大変面白い」と激賞されていました。

矢橋赤水（六十六歳）に対する頼山陽（三十四歳）の態度は実に丁重で、最高の敬意を払いながら、巧にユーモアを盛り込んで、しかも真摯に交友を続けてきた、ということであったのです。だから、「程君房」の手紙

のあと、つまり文化十年（一八三三）の暮れ十二月に京都へ寄来したあとの、明けて正月三日付の手紙で、「茶屋主人（菱田毅齋）に、けしかけられて戯れの手紙を出したから……」と詫びてきているあたり、豊かな人間性の一端を窺わせて面白いと思います。手紙の全文は次のとおりです。

再日 今朝将上舟赴桑名 匆匆中涉筆
作書 千万恕亮 襄頓首 襄辱枉顧
僑居 叙別慇懃 深領厚意 老人不
辞步履之難 遠跋涉十余里之山水而來
其意何在 在託索老叟之書乎 抑在求
一藍墨也 而僕欲得墨 猶老兄之欲得
書 欲得書 則 宜見惠墨 不見惠
墨則宜絶念於書 老兄託書於僕 而
収墨於懷 蓋愛兩叟之書 不及愛兩
挺之墨也 不則雖有廷珪龍鳳之寶
將草芥視之 僕之難於得兩叟書 甚
於老兄之得墨 墨価十三銭 而老兄
不以換之兩叟之書 是兩叟之書 不
直十三銭也 是何足以劳心

以上の文面を解説してみます。

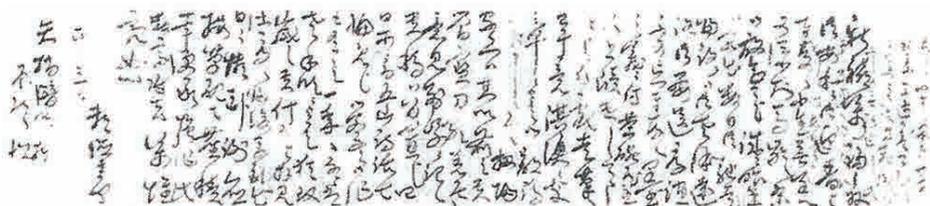
再び日す。今朝まさに舟に上つて桑名に赴かんとす。匆匆、渉々のうちに書を作る。千万恕亮（私の心を察してうけとつてください。）襄（山陽の名）頓首、襄僑居を枉顧すること辱けなし。別を叙すること

と慇懃。深く厚意を領す。老人（矢橋赤水のこと）步履の難きを辞せずして、遠く十里の山水を跋涉して来る。その心は何にあるや。それは託して老叟の書を求むるにあるか。抑も古墨を二監することを求めることありや。而して僕は墨を得んと欲す。猶、老兄の書を得んと欲するがごとし。書を得んと欲す、則ち宜しく墨を恵まるべし。墨を恵まれずんば、宜しく書を欲しいという心を断つべし。老兄は書を僕に託す。而して墨を懐らに収めた。蓋し兩叟の書を愛して、兩挺の墨を愛するに及ばざるなり。不（し）からずんば、則ち廷珪龍鳳（銘墨のこと）の宝ありと雖も、まさにこれを見ると草芥とせんとす。僕の兩叟の書を得るに難きは、老兄の墨を得るよりも

甚だしからん。墨の価は十三銭（非常に安い意）、而して老兄は以てこれを兩叟の書に換えずんば、これこの兩叟の書は十三銭にも価せざるなり。これ何ぞ以て心を勞するに足らん。

というわけですが、さらにまた、山陽は、矢橋家で拝見した、藤原惺窩の真筆「大抵学問有兩途 致知力行而已」の二行書の書幅に対して、下の写真のような識語を認めて矢橋さんへ贈っています。「癸酉孟冬 山陽外史 頼襄拜 識于竹雪廬」とサインしてあり、そのほかにも随分と詩文の上で深い交流を続けていたことが察せられます。

ともあれ、頼山陽が初めて美濃に訪れた文化十年の秋、金生山に案内されたの第一印象は、矢橋赤水との交友関係からの延長であり、おこに江馬細香と巡り逢い、そして多くの文人たちとの交遊があり、美濃の文化的発展に大きく貢献されたのでした。



頼徳太郎（山陽）から、矢橋潜斐父子に宛てた手紙



矢橋林業株式会社